

第73回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日時：2023年6月10日(土) 9:55～10:40

口演発表 (学位口演発表) 10:00～10:40

Zoomミーティングによるオンライン開催

連絡先：福島県郡山市富田町三角堂31-1

☎024-932-8931

奥羽大学歯学会

お 願 い

会員の方へ：

1. <https://forms.gle/aAVTjwXcRtiaFFUW6> から参加登録を済ませてください。
2. 入室後、発表者と座長以外は、マイクoff, カメラoff にしてください。
3. 討議の際には「手を挙げる」機能を使い、座長の指示を待ってください。

発表の要領：

1. 口演の演者は発表当日までに、所定の事後抄録を前田（E-mail：t-maeda@den.ohu-u.ac.jp）までテキスト添付にてご送信ください。（800字程度）
2. 口演発表
 - 1) 口演発表
 - ①参加者の環境機器は、多様である事が予想されます。スライドの文字サイズ等に配慮してください。
 - ②学会開催前日の午後4時30分からZoomにて試写を行います。
IDパスワードは学会当日と共通です。
 - ③利益相反(COI)の開示：COIの有無に関わらずスライドでCOI状態を開示頂きます。全ての口演者は、2枚目のスライドに「利益相反(COI)開示について」の題目で報告をしてください。
 - 2) 口演時間
口演時間は口演8分、討論2分の計10分です。
時間の経過については、タイマーを用意いたします。

第73回奥羽大学歯学会プログラム

9:55 開会の辞

瀬川 洋 会長

一口演発表(学位口演4演題)

10:00 ~ 10:20

座長 柴田 達也

10:00 ~ 10:10

1. 経鼻的酸素投与下における静脈内鎮静の安全管理上の問題点

○安部将太¹、川合宏仁²

(奥羽大・大学院・生体管理¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²)

研修コード0399 関連項目 (1) 0302 (2) 0301

10:10 ~ 10:20

2. 味覚感受性と味覚嗜好および生活習慣との相関

○西 祐也¹、高橋文太郎²、高田 訓^{1,2}

(奥羽大・大学院・顎口腔外科¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

研修コード0599 関連項目 (1) 0101 (2) 2424

10:20 ~ 10:40

座長 川原 一郎

10:20 ~ 10:30

3. 複数回の全身麻酔を行った患者におけるPONVの検討

○佐藤璃奈、山崎信也

(奥羽大・大学院・生体管理)

研修コード0302 関連項目 (1) 0305 (2) 1105

10:30 ~ 10:40

4. 低濃度レミフェンタニルを用いた自発呼吸下の全身麻酔管理の検討

○小汲大二郎、山崎信也

(奥羽大・大学院・生体管理)

研修コード0302 関連項目 (1) 0305 (2) 1105

10:40 閉会の辞

川合 宏仁 副会長

口 演 発 表 抄 録（学位口演発表）

10：00～10：40

1. 経鼻的酸素投与下における静脈内鎮静の安全管理上の問題点

○安部将太¹、川合宏仁²

(奥羽大・大学院・生体管理¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²)

近年、歯科恐怖症や異常絞扼反射を持つ患者に対し静脈内鎮静法が用いられており、使用される静脈内鎮静薬の呼吸抑制による低酸素血症を予防するために、経鼻的酸素投与が併用されている。一方、歯科治療は、気道の一部で行われる医療行為であり、口腔内に高濃度酸素が滞留して引火した場合には、気道熱傷のような医療事故に繋がる可能性がある。今回、経鼻的酸素投与を行いながら静脈内鎮静中の口腔内酸素濃度を観察し、医療安全管理上の問題点が明らかになったので報告する。

研修コード0399 関連項目 (1) 0302 (2) 0301

2. 味覚感受性と味覚嗜好および生活習慣との相関

○西 祐也¹、高橋文太郎²、高田 訓^{1,2}

(奥羽大・大学院・顎口腔外科¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

近年味覚障害を訴える患者は増加傾向にある。臨床において味覚障害の症状は様々であり、原因が分からず診断に苦慮する症例も少なくない。味覚と口腔乾燥やストレス、全身疾患との相関の報告は散見されるが、生活習慣と味覚の相関についての報告は少ない。今回われわれは、味覚感受性および口腔乾燥と生活習慣との相関について検討したので報告する。生活習慣に関するアンケート、味覚検査、ムークスによる口腔湿潤度の検査を行い、それぞれの関連について検討を行った。

その結果、味覚感受性と飲酒習慣、運動習慣、食事回数に関連を認めた。

研修コード0599 関連項目 (1) 0101 (2) 2424

3. 複数回の全身麻酔を行った患者におけるPONVの検討

○佐藤璃奈、山崎信也

(奥羽大・大学院・生体管理)

全身麻酔後の悪心・嘔吐 (PONV) は回避すべき合併症の一つである。当院で行われている知的障害者への複数回全身麻酔において麻酔方法とPONVの発生確率について研究を行った。

結果、PONVが発生する確率は過去の報告と同様だった。しかし、PONVが出現した症例に対して、麻酔維持を亜酸化窒素とセボフルランからセボフルランとレミフェンタニル、レミフェンタニルとプロポフォールに変更した症例では、PONVが有意に低下した。

研修コード0302 関連項目 (1) 0305 (2) 1105

4. 低濃度レミフェンタニルを用いた自発呼吸下の全身麻酔管理の検討

○小汲大二郎、山崎信也
(奥羽大・大学院・生体管理)

低濃度レミフェンタニルで自発呼吸を温存した全身麻酔管理の研究は稀である。そこで我々は3歳から61歳までの200症例について、自発呼吸管理が可能なレミフェンタニル投与速度と患者の年齢との関係について検討した。

その結果、自発呼吸数が麻酔導入前の半分となるレミフェンタニル投与量は、年齢が上がるにつれ負の相関関係を示した。また、レミフェンタニルを0.1mg/mLで希釈すると、どの年齢においても、おおよそ0.88mL/h程度の持続投与になることが認められた。

研修コード0302 関連項目 (1) 0305 (2) 1105

第74回奥羽大学歯学会予定
日時：2023年11月11日(土)

—歯学会学会委員—

福井和徳（成長発育歯）*、前田豊信（口腔機能分子）*、宇佐美晶信（生体構造）、
島村和宏（成長発育歯）、菊井徹哉（歯科保存）、御代田駿（口腔外科）、
千葉駿一郎（歯科保存）、大橋明石（口腔衛生）、南 健太郎（口腔衛生）、
小林美智代（口腔衛生）、山家尚仁（歯科補綴）、内山梨夏（歯科補綴）、
古山 昭（口腔機能分子）

*学会委員会理事
